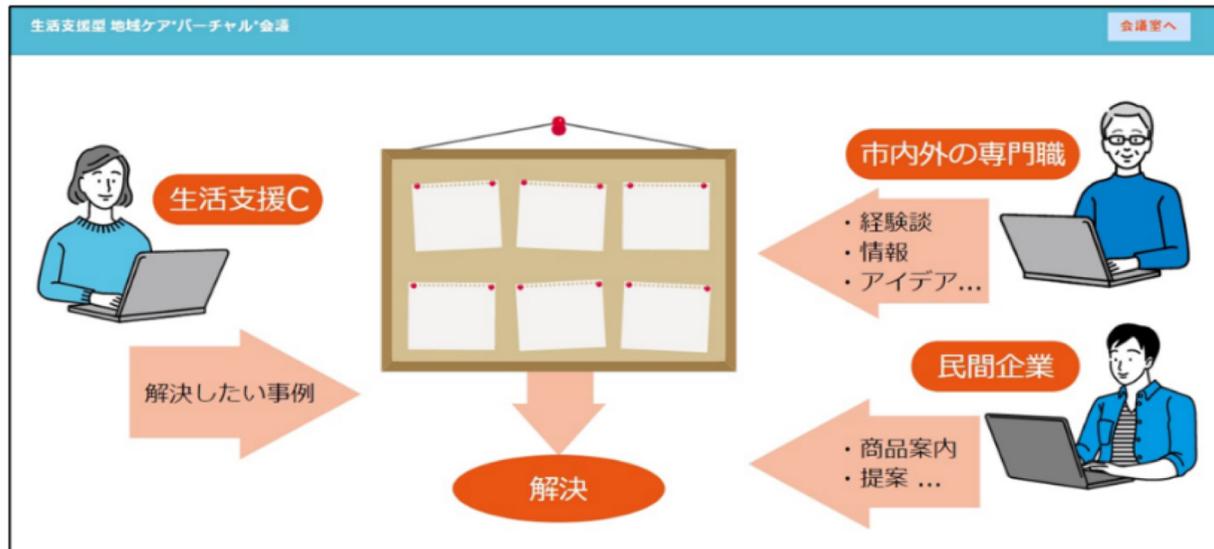


生活支援型 地域ケア“バーチャル”会議

利用のしおり



生活支援型 地域ケア“バーチャル”会議

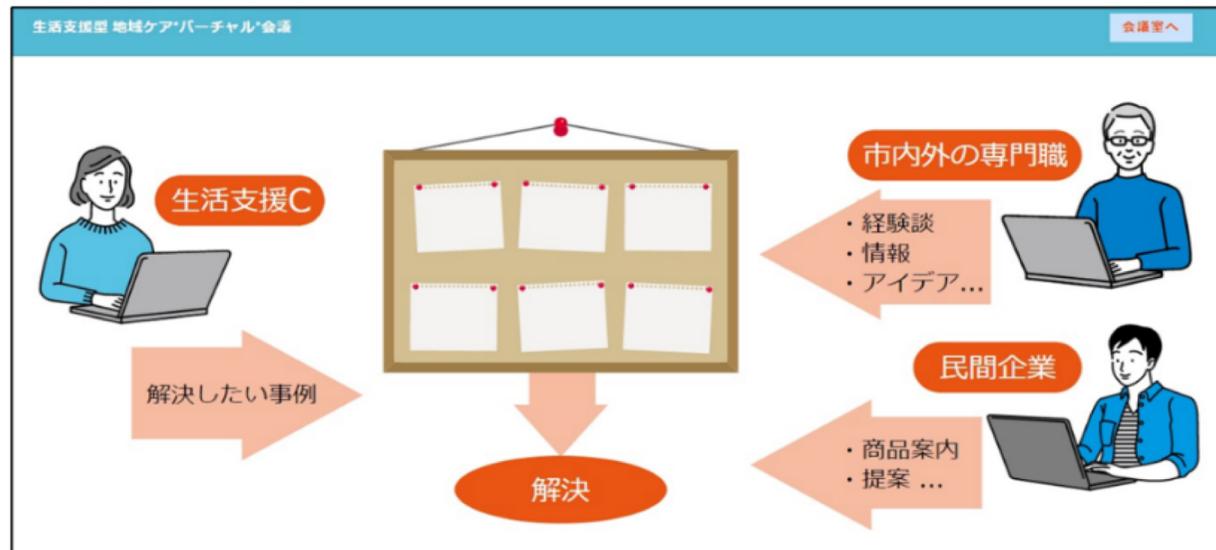


この会議は、生活支援コーディネーターの活動支援を目的に、地域の高齢者の生活支援について、事例を活用して議論をする場です。

「この方には、どんな生活支援が必要だろう？」

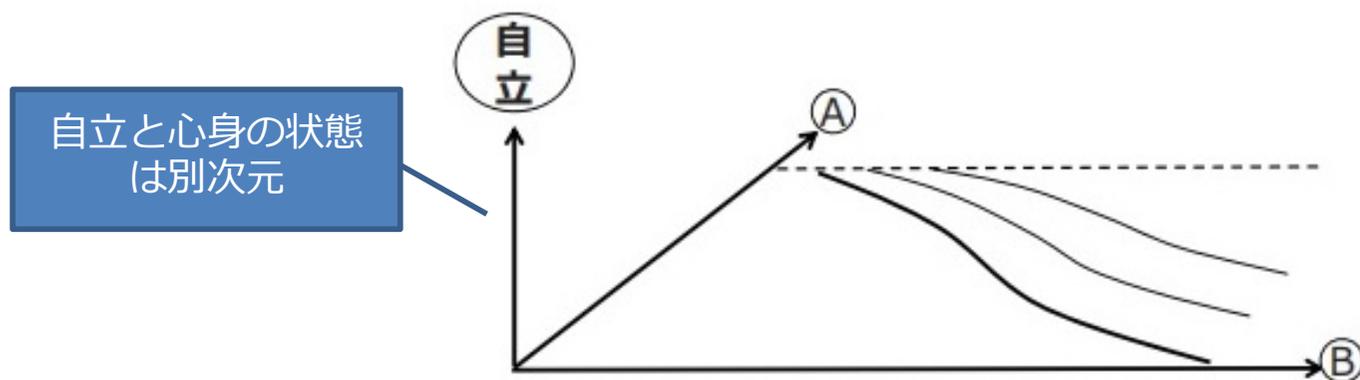
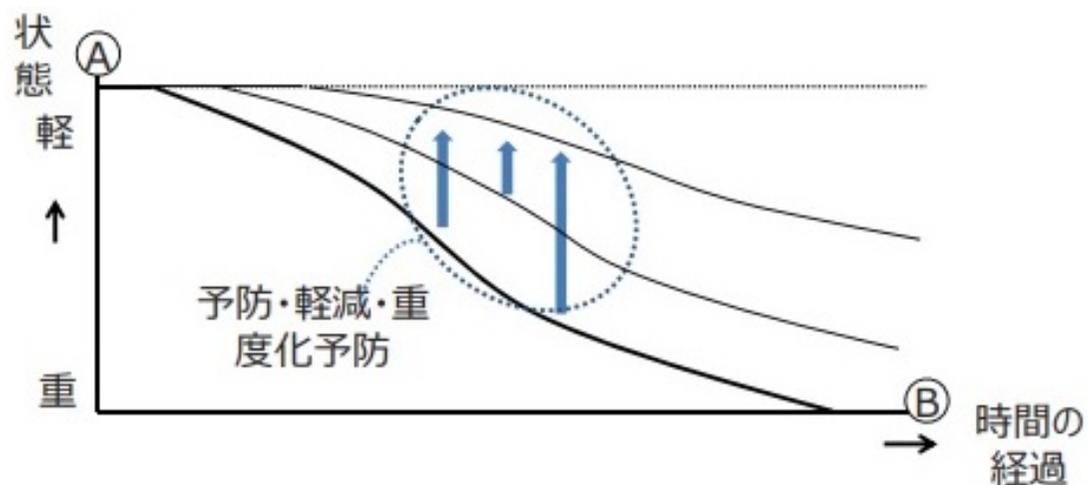
高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活し続けるために、活動的な生活ができるような支援の方法や、社会参加の促進についてアイデアを出し合い、生活支援体制整備事業に繋げていくための取り組みです。

生活支援型 地域ケア“バーチャル”会議

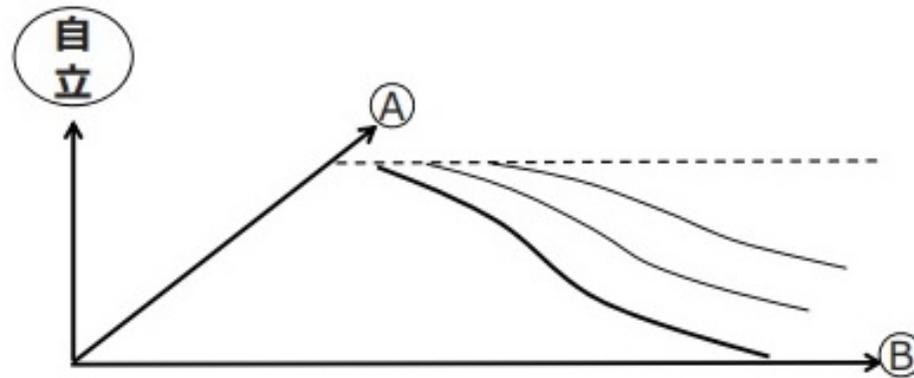
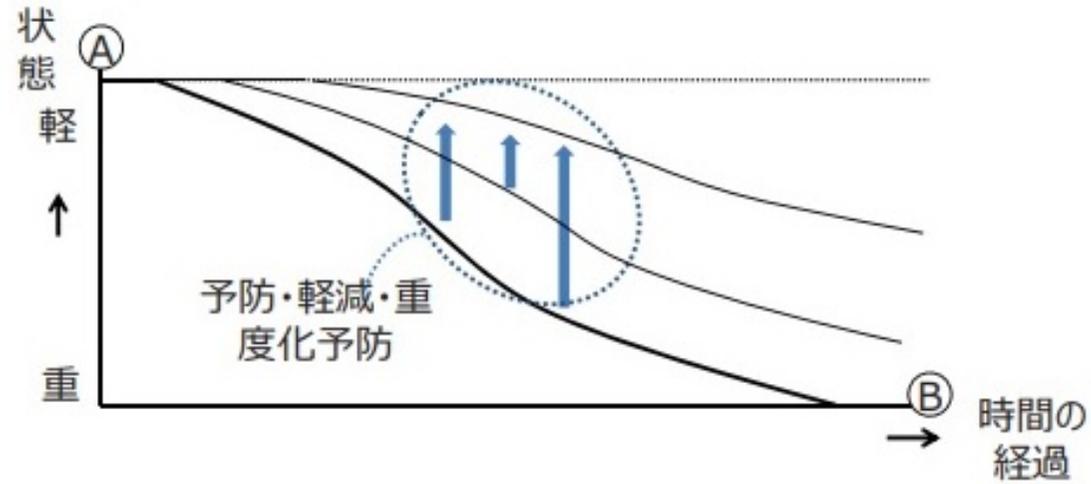


- ① 生活支援のアイデアを出すためケーススタディとして実施
(技術向上の場合。結論は出なくていい。拘束力はありません。)
- ② オープンカンファレンス方式
(参加自由・全国の専門職も参加・民間企業の参加)
- ③ 全員が「生活者の視点」でディスカッション
(専門職視点だけではない)
- ④ アイデアや議論の蓄積が誰かの道しるべに
(全国で同じ議論をするよりも一か所で議論した方が)
- ⑤ 社会資源の開発と発見につながります
(ここで「地域に必要」と思う資源の開発や発見に役立ちます)

自立とは、 「心身の状態にかかわらず、誰かの支援を受けて、 自分らしく主体的に生活できること」



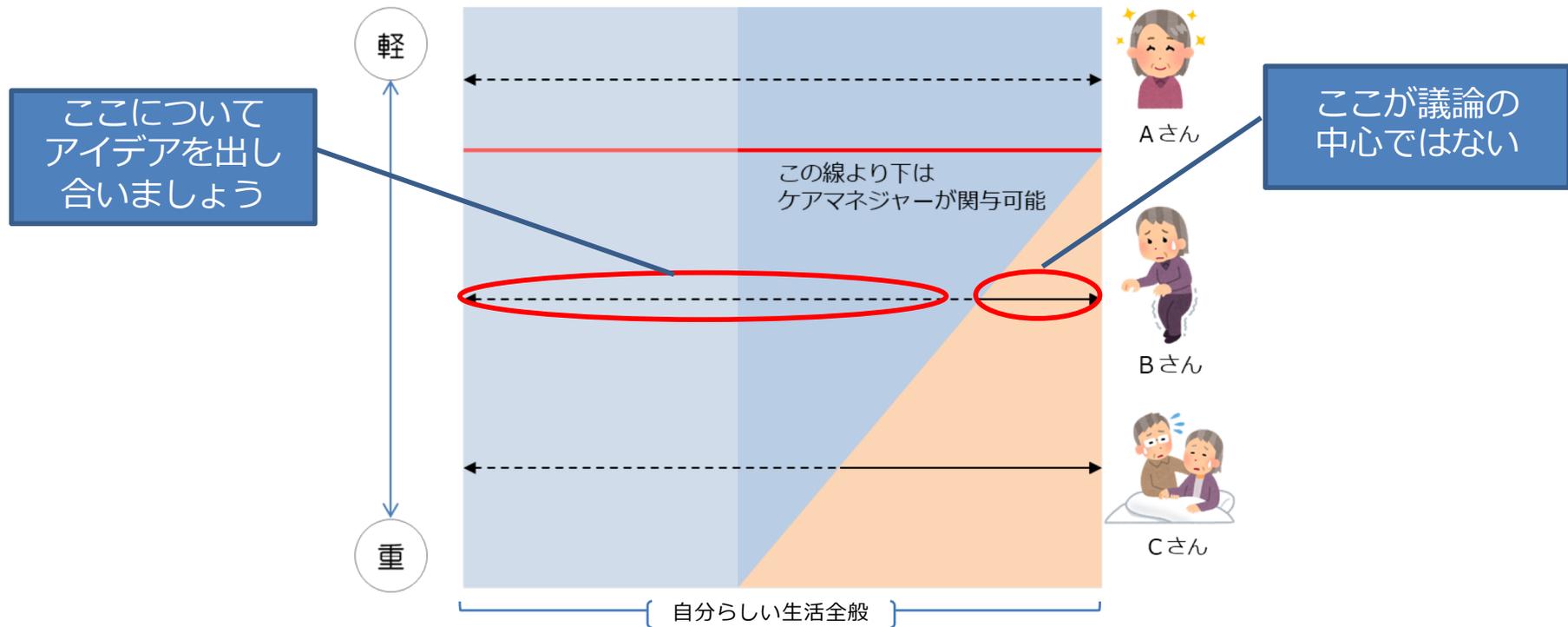
出展：蒲原基道氏（元厚生労働省事務次官）講演資料



出展：蒲原基道氏（元厚生労働省事務次官）講演資料

**心身の状態を改善させる方法ではなく
いかに活動的な生活を送れるか**について議論しましょう

ここで議論するのは「生活全般」についてです



その人らしい生活を送るための手段を数多く提案しよう！

その人らしさを支えるのは
フォーマルサービスだけではありません

- フォーマルサービス
(介護保険サービス等)
- インフォーマルサービス
(企業等サービス・住民活動等)
※フォーマルサービスで代替可
- ※フォーマルサービスでの代替が
不可能な領域

事例紹介

自宅周辺に「サロン」
とか介護予防教室とか
ないの？

いくつかあります！

このアイデア受けてくれ
るか話をしてみたら？



生活支援CO

③

④

生活支援COが月2回開催しているサロンで
コーヒープレイクを開催するよう交渉。

以来、毎回、自分の道具で入れたコーヒーを
ふるまうようになった。



右片麻痺のある70代の男性。
最近閉じこもり気味。活動的な方だったが、
デイサービスには行きたくない。

なんとか

「喫茶店でおいしいコーヒーが飲みたい」
という声を聞きだした。

しかし、歩いて行ける範囲に喫茶店はない。



①

②

専門職（薬剤師・管理栄養士・介護事業所職員
等）から専門職としてのアドバイスが出たのち、
コーヒーを飲みに行く方法を話し始めた。
バス停も遠く、移動支援の団体もない。
タクシーでコーヒー？



コーヒー好きの作業療法士

コーヒー好きの人は、
入れるのも好きはず。
いいコーヒーと道具を購入。
左手で入れる練習をして
コーヒーを入れに行く
役割を与えたらどうか？

事例紹介

シニア向けの旅行プランや
同行してくれるサービスはないだろうか？

「旅行会社に聞き取ったことがあるが、シニア向けプランは見つからない」

「シニアには意外にフェリー旅行がおすすめ。
Drが船内にいてくれるので
安心感が持てる」



③

ケアマネさんと話をしていると
旅行好きの高齢者が、旅行に行けなくなっ
たことで

引きこもり気味傾向になる、
という声を聞いていました。

「いい方法はないかな？」



①

④

旅行好きの女性のケアマネジャーに話をすると、
旅行に行けるようにリハビリを頑張ろうという
意欲につながったとのこと。



また、この話を旅行会社にした
ところ、高齢者向けのプラン
について検討してみると
連絡してくれました。

②

SCが旅行好きだった杖歩行の
女性と話をしました。



話を聞くと、
歩行距離や体力に不安があり、
通常の旅行プランについていく
自信がなく、旅行をあきらめている。
日ごろの生活でも外出が億劫になり、
引きこもり傾向にあることが
わかりました。

この会議で「議論すること」

① 活動量を増やすにはどうすればよいか？

→ 廃用症候群から脱却・予防

いかに活動量を増やすのかという視点で 生活支援の方法を考えましょう。

② 参加を促すためにはどうすればよいか？

→ 個人因子や環境因子から適切な地域資源を見出そう

地域資源とは、介護予防教室・サロン・お助け隊だけではありません。
家族や商店や近所づきあい、自分や誰かの趣味、
日常生活で出会うすべてのものが資源です。

③ 高齢者の「可能性」を信じて

ひとりの生活者・隣人としてのアイデアを！

こんなものがあつたらいいね、というアイデアが地域づくりに役立ちます。

アイデアを出すために

①元の生活はどんな生活だったのですか？

自分らしく生活していた頃の普通の暮らしを知ること
対象者を支えていた社会資源を把握しましょう。

②今はどんな生活ですか？

元の生活から「失ったもの」を認識することで
現在の生活に至った「理由」を考えてみましょう。

③本当に必要なモノは何ですか？

「目指す暮らし」と「今の生活」の差を埋めるものがサービス
その人の生活の周りにある資源から、その人らしい生活を引き出す
資源を活用しましょう。

書き込み方法

① 質問、経験談、情報、アイデア
を自由に投稿してください。

② 名前は匿名でOK

ただし、名前欄に「市区町村名」「職種」は必ず記載してください。
(例) ○○市 ケアマネジャー

③ 投稿は事例提供後 2 か月間

議論の内容は削除しませんが、投稿できる期間は限定します。

議論する事例のスレッドは、国際長寿センターのみが作成します。
それ以外のスレッドは予告なく削除します。
事例を提供したい場合には、国際長寿センターまでお問い合わせください。

※ 掲示板の議論の管理は、国際長寿センターが行います。
予告なく投稿を削除する場合がありますので、ご了承ください。

「市外の方」「企業の方」

【市外の専門職の方にお願ひ】

- ・ **自分のまちのケースとして発言してください**
ここでの議論に正解はありません。
事例の市の制度やサービスの状況がわからなくても「生活」という視点では大きな差はないはずです。
逆に様々な質問をすることで、お互いに新たな発見があるかもしれません。
- ・ **過去の経験談はぜひ書き込んでください**

【民間企業の方にお願ひ】

- ・ **課題を解決できる自社のサービスや商品を紹介してください。**
- ・ **新たな商品やサービスの開発についての御提案はぜひ事務局までご連絡ください**

